

第 10 回東郷地域協議会会議録(要約)

日 時 令和 5 年 1 月 30 日(月) PM7:00～8:50

場 所 新城市役所 4 階会議室

出席者 委員 24 名 事務局 4 名

次第

1 会長あいさつ

2 報告

(1) 令和 4 年度地域自治区予算の進捗状況について

3 議事

(1) 地域活動交付金からの自立について

(2) 来年度取り組む重点テーマ検討

4 連絡事項

1 会長あいさつ

2 報告

- ・令和 4 年度地域自治区予算(多世代交流事業・子育て世代交流促進事業)の進捗状況について

3 議事

協議会の会議録署名

- ・定数 30 人のところ 24 人の出席があり会議は成立している。
- ・会議録署名について、会長及び署名委員を 2 名指名し署名をお願いした。

(1) 地域活動交付金からの自立について

昨年度の地域協議会からの引き継ぎ事項にある「地域活動交付金からの自立」について、前回の地域協議会での話し合い結果をおさらいしつつ、地域活動交付金の新たな仕組みについて検討した。

○主な意見

委員 そもそもこれが問題となった理由を、もう一度委員の皆さんにわかりやすく説明してもらえば、もう少し何か丁度良い方法が見つかるのかもしれない。

会長 地域活動交付金が始まって以来ずっと申請している団体もあり、補助金として最初からお金をもらうことを前提に申請している団体が多い。5 年 10 年かかっても自立に繋がっていない。今後地域活動交付金がいつまでも続くとは限らないし、このままの形で申請が続いていいのかという疑問が湧いてきた。どうしたらもっと、本当の自治というか、住民の自治意識の中で、何とか行政の枠から離れて自分たちで何かできないかという発想をもっと欲しいということだと思ふ。

委員 ボランティアで草刈をしている人は、気持ちでやってくれているので、お金を出すからと言って、3年でもう切ると言われると、何かそこが釈然としない。それと、過去に食事代について、市のお金で出すのは少し引かかるとなり、食事は交付金ではなく自分たちのお金で出して欲しいとなった。会議の時も、100円のお茶を出すところと140円のお茶を出すところと違いがある。また、過去の経緯で会議の時のお茶は自分たちで持っていけばいいのではないかと、ただ作業をしている時は、自前で持ってきたのでは足りないから作業用のお茶は出してもいいので、会議の時くらいはお茶は自分たちで工面してほしいというのを決めた。お茶もいい、食事もいいとなってしまうと、今までやってきたこととズレが生じてしまうがなぜか。

事務局 もともと地域活動交付金のお茶に関して、市のルールとしては作業はもちろん、会議のお茶も認めているが、東郷地域協議会として、作業はいいが会議のお茶は自分たちで努力して欲しいという意見をつけた経緯がある。それは東郷地域協議会の意思で決めたこと。

委員 私が委員になった時には、予算額を上回る多くの申請があったので、落ちてしまう団体もあった。実際にはお茶だけで10万円以上かかっていたので、作業の時はいいけれども、会議の時のお茶を削れば、落ちた団体を少しでも拾うことができるということから、そのような方針となった。

会長 色々と困難な歴史を辿って今の状態になっているのだけれども、年数や年代によって様々な捉え方があると思う。事務局の説明にあったのは、もっと自由にお金を使えるようなシステムを新たに作ったらどうかということ。そして、もっと利益を生み出せるような団体ができてきたらもっといいなということを目指して思う。ここ最近たまたま交付金の予算が余っている年が続いたので、そのせつかくの予算を何とかもっと生かせないかということだと思う。それにはもうちょっと自由に金を使えるような団体を作っていないとできないのではないかと。ただ、それは今回決定することではなくて、次年度以降の委員の皆さんでまた検討していただきたいと思う。今ここで議論すると長くなってしまふ。

委員 これからは交付金の募集の時に自立していけるような趣旨のことを掲載して募集するのか。

事務局 まだ何も決まっていないが、前提として基本的に地域活動交付金の制度はなかなか変えられないということがある。市全体の統一的な制度であり東郷地域だけの制度ではないので、今ある制度は今の形で続いていく。ただ、自立ということに関し、東郷地域協議会として、何年か前からずっと議論してきたので、今までの地域活動交付金は残しつつ、プラスアルファで制度を作るイメージ。例えば、今の地域活動交付金と同じように審査の方を地域協議会がやっていただいて、今までの既存の部分と、もう1つ新たなコミュニティビジネスの補助金を併せて審査をやっていただくことも考えられる。したがって、募集についても、東郷地域の回覧版を活用した方が効果的。その際には、そうした自立という部分の新たなメニューができたので、手を挙げてくださというような形でチラシには掲載するのかなと思う。

委員 そういふ問題じゃなくて、今区としても困っていることも結構あると思う。例えば、先ほど言った草刈の問題。やれるところは自分たちでやっている。でも、私たちも困っているのだけれど、木が大きくなってしまい伐採して欲しいとか、傾斜があるので危な

いなど、そういうところ。じゃあ誰かやってくれるのか。これを市にお願いしても、個人の財産となるので市では伐採できないということで断られてしまう。結局そういう危ないようなところは誰もできず、放置されたままとなってしまいます。やっぱりそういうところで、そのように困っているところの問題をお金に換えてでも、草刈や電線に引っかかりそうな木の伐採だとか、そういうのを簡単にお願ひできるようなシステムになるのであればいいが、それが3年で切られるとかそういう問題ではない。結局は、困りごととそれから将来の自立ということは切り分けて考えないとおかしい問題になってしまう。やはり東郷として、困っていることが結構あると思う。そういうことの中身を区民に確認したり、地域協議会で話し合ったりして、こういうことに問題があるとか、こういうものについてはどうしたらいいかというような流れならいいけれども。それと様々な会があつて、それで何かやりたいというものと切り分けたりしていかないと、東郷は良くならないと思う。県とか国とかそういう問題は私には分からないが、いずれにしても東郷というのは地理的にはすごく良い。インターチェンジもできたりしているが人口は減っている。結局、魅力がないということ。それで、総合公園は、結構使えると思うがあまり使われてない。陸上競技場は、遠くから見れば綺麗だが、近くで見るとでこぼこであつて、その中でサッカーをやったりするのは利用者が可哀想。トラックについては、ロープ一本だけで区切られていて本当にみっともない。名古屋の瑞穂町はすごく立派でかつこいい。長久手のジブリパークもそう。県などとコラボしていかなければこれから発展できないと思う。ジブリをこっちへ持ってきてもらうとか、そういう流れで東郷をより発展できるような方式を作ってもらいたい。

会 長 困りごとをどうやって解決するかという問題と、それからいろんなことをやりたい団体をどうやって育てるかという問題と混ざっている。その辺はうまく振り分けていく必要がある。それから今言われた総合公園は県の管轄なので、新城東高校の跡地の問題にしてもそうだが、これからいろいろ問題になると思う。ちょうど愛知県知事選挙をやっているんで、その辺も考えて選挙していただきたい。

委 員 先ほど委員さんが言われたことに対して回答がきちんと出来ていないと思う。多分、委員の皆さんがいろいろ思っている部分だとか言いたいところもあると思うし、事務局側で想定しているようなものもあると思うけれども、今問題となっているのは、今の地域活動交付金が今のままでいいのかどうかというところが一番の問題で、ただその制度を変えようにも新城市全体で決まってることなので東郷だけは変えられない。ただ、結局そのあたりの話で地域自治区予算と地域活動交付金の話とごちゃ混ぜになってしまっている。今委員さんの中で、様々な意見が出てきたが、そういうところをはっきりとしないと来年度議論ができていかないと思うので、お手数だが事務局の方で、文字だけだとわかりにくいので、図でも何でもいいがもう少しわかりやすい形で、委員の皆さんが考えやすいような形で検討できるように何らかしら資料を多少分厚くなってもいいのでご準備いただきたい。今年度会議がもう1回残っているので、次回それまでに準備いただければ。

会 長 この議論は大変難しい問題を含んでいるので、来年度の先送り事項になるが、今年度は残り1回の会議しかないので、来年度の地域協議会でまた検討していただくということでよろしくお願ひしたい。

(2) 来年度取り組む重点テーマ検討

地域計画の5つの柱ごとにグループにわかれ、来年度地域協議会として重点的に取り組むテーマを検討した。まずは今までのメンバーではなく、メンバーをシャッフルし新たなメンバーによりこれまでとは異なる視点で討議を行った後に既存のグループメンバーで協議し重点テーマを決定した。以下発表要旨。

柱1 暮らそう

(1回目)

- ・今の東郷地域は若い人が住める状況ではないということ。例えば、宅地開発が難しい。これは新城市が都市計画法を施行しているから、都市計画区域と市街化調整区域の区別がある。鳳来地区は長篠区域を除き都市計画法が施行されてないので、ある程度は建てようと思えば建てられる。あと、空き家について、取り壊すと固定資産税が高いと言うけれども、取り壊すにも今は取り壊し経費が上がってしまっているから躊躇している方が非常に多い。取り壊しができれば、土地を売って、また2件3件と家が建つ可能性はある。
- ・東郷は農業地帯なので、空き家には農地がくっついている可能性が高い。そうすると、所有者は農地も片付けたいが、そういうのを切り離していただけるならば、そういったことが可能となるが、これは非常に難しい問題。
- ・都市の方が家に引きこもっているという問題は、農業主体の人たちは大体畑があり、家庭菜園をやっているけれども、緑が丘のように住宅地だとそういうところがないので、いかにして体を動かすことや、自分で考えるかということが非常に大事なこと。

(2回目)

- ・高齢者の方を少しでもいいから外に出すということ。そのためには、遊べる場所を設けるとか、新しく建てるのはなかなか難しいので、子どもや大人を交えて、色々なイベントを実施するなどして、まずは人を集める。地元の人でも知らない地元の場所が結構あると思うので、そのPRをして、個人で行くのもよし団体で行くのもよし、少しでも普段の暮らしを楽しむような形で進めていきたい。

柱2 守ろう

(1回目)

- ・空き家の有効活用ということで、空き家は防犯上も景観上も非常に問題がある。ただ有効活用という面では、所有権の問題があつたり色々難しい面もある。有効活用という観点から検討していったらどうか。私の地元にも今にも朽ち果てて倒れてしまいそうな空き家が数件ある。空き家を壊して更地にすると一気に固定資産税が上がるなど、色々な問題があろうと思うが、何とかならないものなのか。
- ・防災連携ということで、今年の課題にもあつたが、コロナで今なかなか実働の部分が出ていないということがある。これでコロナ禍が収束していく流れ、ただ次から次へと変異株が出て完全に終息ということはないかもしれないが、顔の見える関係というのが大事となるので、何とか隣組や2~3の組と連携して、何らかの形で連携して防災活動が出来るように検討していきたい。
- ・遊休農地の活用というのは鳥獣害等の難しい問題もあるが、耕作放棄地だと環境上など

色々問題があるので何とかしたい。

- ・危険箇所の点検ということで、通学路の中にも危険箇所が点在しているということもあるので、その辺の調査をして、道路管理者の方には是正の要望をするなど、そのような形ができるのではないかな。

(2回目)

- ・空き家の有効活用、農地の活用、防災訓練の地域連携、危険箇所の調査という意見があった。それを踏まえ、危険箇所の調査が一番取り組みやすいのではないかな。危険箇所の調査といっても、地震や風水害、災害被害が起こりそうなところ、子どもたちの通学路だとか、そういう場所を各地区で調査していただいて、それを東郷地区の全体のマップにする。まずは自分たちの地域の危険な場所を知るところがいいのではないかな。防災連携は隣の地区と共同して訓練を行うといってもすぐにはできない。以上のことから優先順位的には危険箇所調査が重点テーマとなった。

柱3 育てよう

(1回目)

- ・何を育てるか、お年寄りが一番多いのでお年寄りを育てよう。子どもを育てるだけに特化してしまうのではなく、高齢者も一緒に育てばいいし、子育て世代のお母さんも一緒に育てばいい。子どもは少ないが高齢者はたくさんいる。あそこに行けば誰かいるよねというようなものになっていくと、そこを起点に育つということの一つの拠点ができるのではないかな。東郷には児童館みたいなものがないので、その代わりとして公民館を活用するか具体的な方法まではまだ行き着かなかったが、例えば、土日とか買い物行く時に子どもを少し1~2時間預って欲しいという時に、カルチャー教室的にどここの公民館は日曜日に何とかクラブがやっているだとか、そのような仕掛けを作って、それこそ今東郷学び学校はイベントでやっているが、それが常設されているイメージで、そこに行くとなんかいて何かがあって、麻雀などをやってる人もいるかもしれないし、その辺は色々な仕掛けをして、ブラジル人が集まっている時期もあるかもしれないとか、色々なことがあってもいいのかなと思う。そこに子育ての要素とか遊びの要素とかが、入り組んでくると、多世代が交流できるようなカルチャー教室みたいなものもいい感じにそこにマッチングしてたらいい。子育てだけじゃなくて、高齢者も育てようみたいな形で、拠点ができるといい。

(2回目)

- ・総合公園みたいなでかい公園はあるが、身近に公園がないという話になった。ある公園はすべり台がもう使えなかったりという話があったり、家から出ても行く場所が子どもも大人もないという話もあった。しかし、これから人口が減っていくところで新しいものを作るのはなかなかハードルが高いので、今あるものを使えばいい。学校は土日使っていないのは勿体ない。小学校は遊具や体育館もあり、子どもにとっても遊ぶものが多い。例えば、春は上平井の公民館を開放しているとか、そんなふうに季節限定でどこどこ公民館を開放して何かを設置するというのもあり。また、春の土日は東郷西小学校、夏の土日は東郷東小学校が開放されているとか、西の子は東に行ったことないし、東の子は西に行ったことないので、せっかく東郷の中で眠っている時間の眠っている社会資源を生かしていけば、

多世代交流だとか、子ども食堂みたいな機能もあつたら面白いとか、やっぱり将棋みたいなそういうことも多世代で交わるようなアイテムをどういうふうに学び学校の常設化をしていけるか考えていけると、そこに何かいろんなヒントがありそう。

柱4 学ぼう

(1回目)

一言で言うと発信するということ。地域計画には、歴史探訪や郷土料理・特産品の情報発信もあり、プラスで今検定試験も作っているので、長篠・設楽原の戦いの検定をPRしていくについても、やはり発信は必要というところ。いずれ楽しもうの東郷のホームページともコラボしないといけないが、とりあえず発信のための動画作成だとか、色々なことを考えながら、PRしていくための発信を考えていきたい。どういったメディアを使って発信していくかというのはまだまだこれから検討しないといけないが、インターネットをうまく活用して、東郷のホームページやSNSも活用していけたら。

(2回目)

先ほど話したとおり、発信というところで意見はまとまったが、他にも郷土料理・特産品の情報発信とあるが、東郷の郷土料理とはなんだろうとなった。ただ、やはりSNSとかYouTubeショートみたいな短い動画作りたいという話には終始したので、発信というところで動いていきたい。

柱5 楽しもう

(1回目)

•そもそも楽しもうという柱は全ての柱を積んでいて、どこの柱にも楽しもうは絡む柱となっている。その視点で話をしている最初に出たのが楽しいイベントなんかないかという話が出た。例えば、フリーマーケットがやりたいとか東郷体育振興会の運動会が最近やってないとか。でも、そういう運動会じゃなく、誰もが参加できる、車椅子に乗っている人でも参加できるようなそういったスポーツなど、みんなが絡むようなイベントをやったらどうか。例えば、ユニバーサルボッチャ、ペタンクなどといったニュースポーツなど。

•東郷地域の魅力アップという話が出た。東郷の魅力アップをするのにどうしたらいいのかというところで、新城に来てお土産と言って、一瞬止まってしまう自分たちがいる。それから、B級グルメみたいなものって何があるのか。五平餅は誰も言わないし、他のものがなかなか出てこない。だからそういったものを開発するのはどうか。最近馬防柵スティックを作ったというのが新聞で出たりしていた。だから、お土産などを開発するというテーマに絞れた。そして、その魅力アップのためにB級グルメを開発するということを考えてもらったらどうなのかなど。楽しもうだけではなく、色々な柱に関わるような気がする。例えば、この地域の素材は結構あるのではないかな、色々なものがあるからそれを活用して、他の団体にも協力してもらい、そういったものを開発するというところを来年度の楽しもうの柱で考えてもらいたい。

(2回目)

•B級グルメを開発してお土産化するというテーマの他に、東郷体育振興会とコラボして、

誰もが参加でき、みんなが楽しめるということをキーワードにして、何か楽しめるイベントなどを企画して欲しい。

4 連絡事項

- ・地域計画推進体制検討会の報告
- ・令和5年度地域協議会委員提出書類について(推薦書・承諾書)
- ・地域活動交付金審査資料の配付について

【20:50 終了】